

都心型漁業を核としたコンパクトシティのあり方に関する研究

—(その4)ワークショップから捉えた「観光漁業」の可能性—

A Study on the Ideal Way of the Compact City in Urban Waterfront

—(Part4) Possibility of “Tourism Fishing” from Workshop—

○中島誠仁¹, 横内憲久², 岡田智秀³, 佐波敏英⁴

*Masahito Nakajima¹, Norihisa Yokouchi², Tomohide Okada³, and Toshihide Saba⁴

Abstract: The purpose of this study is to lead the ideal method of the Compact City in Urban Waterfront. This paper proposes the possibility of “Tourism Fishing” from Workshop. As a result, we showed the possibility of "sightseeing fishing". The elements are "non-everydayness", "accessibility" and "a resident's understanding and assistance".

1. はじめに

これまで本研究^{[1]~[3]}は、大都市都心部で直面する漁業環境問題^{*1}を改善すべく、東京都大田区羽田地区を対象に、都心型漁業(大都市都心部の漁業)を核として、その発展に不可欠な「環境の向上」と「観光の促進」によって新たなコミュニティの創成を目指し、さらに「水上交通」により地域が結びつくコンパクトシティのあり方を提案してきた。その特色のひとつである潮干狩りや漁業体験など、「観光漁業」による地元住民や観光客といった多様な人々の参画を促すことは、劣悪な漁業環境問題を解決に向かわせる一方策として重要な視点であると認識する。

そこで本稿では、都心型漁業の「観光漁業」としての可能性を明らかにすることを目的とする。

2. 調査方法

上記目的を達成するため、本稿では、大学生を対象に都心型漁業の体験^{*2}(Figure1)を行い、その体験より捉えた「観光漁業」の評価について、アンケート調査を実施し、さらに、これら体験者が共有の論点で協議を進めていくことのできるワークショップ(以下、WS)形式により、都心型漁業の「観光漁業」の成立要件を明らかにする(Table1)。

3. 結果および考察

体験から捉えた「観光漁業」に関する評価を Table2 に示し、WS より得られた「観光漁業」の成立要件を Figure2 に示す。以降では、これらの内容について主な特徴を述べていく。

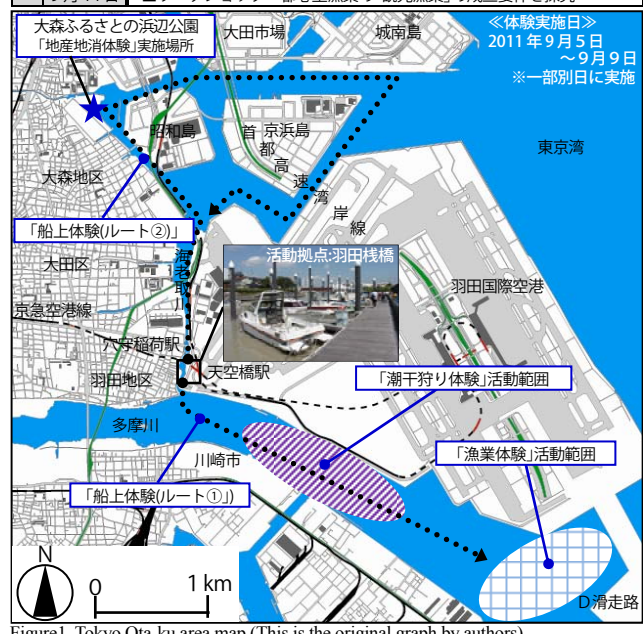
(1) 体験者が抱いた魅力要素—Table2 の「体験から捉えた魅力」(89 件)の項目をみると、「非日常性」に関する評価が 76 件と圧倒的に多いことがわかる。そして、これらの内容に着目すると『都心で実際に多種多様な魚を獲ることが新鮮で楽しかった』『生の漁業風景が見られるのは魅力的』『観光船ではなく漁船に乗る面白さ』

といった、地域独自の生業・風土を背景に、その魅力が挙げられている。さらに、漁船から望むことができる羽田地区周辺に点在する航空機や工場群など、港ならではのスケールの大きな観光資源もその魅力として位置づけられている。これより、大都市都心部ゆえに産業として認識されていない漁業^[4]を対象とした体験は、雑踏や喧騒から切り離される「非日常感」が得られ、これを都心型漁業の醍醐味として位置づけることができよう。

また、『都心部から 30 分程度で羽田へ行ける』『電車に乗ればすぐに行ける近さがいい』『天空橋駅から徒歩 1 分で漁船に乗ることができるのは魅力的』など、「アクセシビリティ」(7 件)の良さが評価されている。このように、大都市都心部では、多様な手段でのアクセスが可能であり、背後地域に抱える数千万人の首都圏住

Table1. Outline of a research (This is the original graph by authors)

調査方法	アンケート調査およびワークショップ(WS)
調査年月日	2011年9月12日(月)~9月14日(水)
調査対象者	日本大学理工学部学生 12名(男性 11名,女性 1名)
調査内容	○都心型漁業の体験に関する評価 ○「観光漁業」の成立要件
プログラム	9月12日 ■ 体験評価シート(自由記述方式)の配布および記入 「潮干狩り体験」「漁業体験」「船上体験」「地産地消体験」の評価を記入
	9月13日 ■ 体験評価シートの提出・回収 [評価の分析および傾向の把握]
	9月14日 ■ ワークショップ: 都心型漁業の「観光漁業」の成立要件を探究



1 : 日大理工・院・不動産 2 : 日大理工・教員・建築 3 : 日大理工・教員・交通 4 : 日大理工・学部・建築

Table2. Evaluation of experience caught from the experience people (This is the original table by authors)

	「潮干狩り体験」		「漁業体験」		「船上体験」		「地産地消体験」	
	体験者9名 評価記入件数:28	体験者:10名 評価記入件数:29	体験者:12名 評価記入件数:56	体験者:9名 評価記入件数:26				
都心型漁業の体験から捉えた魅力【89】	『非日常性』【76】							
	<ul style="list-style-type: none"> ・都心で実際に多種多様な魚を獲ることが新鮮で楽しかった【3】 ・足の感覚だけでどこに貝があるかわかるほどの豊富な貝が魅力的【3】 ・航空機を間近にみながらの潮干狩りは他地域の潮干狩りにはない魅力【3】 ・漁具を使用する貴重な体験ができた【2】 ・両岸を眺めながら、川の中州で潮の満ち引きを体感する潮干狩りは貴重な経験 ・自分が思い描いていた潮干狩りとスケールが違って良かった ・子供や女性など誰もが気軽に体験することができてよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・生の漁業風景が見られるのは魅力的【2】 ・釣りと違って刺し網漁は貴重な経験【2】 ・都内で多くの魚がこうにして獲れるとは思わなかったので楽しかった ・漁師さんが網を引き揚げる迫力は凄かった ・網を入れることができて楽しかった ・魚をするために沖に出る感覚がいい ・魚が獲れる期待感や獲れた時の喜びがいい ・日常では経験できない漁業ができて良かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光船ではなく漁船に乗る面白さ【5】 ・日常生活では漁船に乗ることがないので貴重な体験ができた【2】 ・磯の香りや海風を体感ができた【2】 ・海の開放感がよかった【2】 ・いつでも船から海に飛び込める環境がワクワク感を生みだしている ・様相の変化(風景、水の流れ等)が魅力的 ・漁船からみる観光資源が魅力的【26】…… ・航空機【10】 羽田国際空港【7】 ・テラスケープ【3】 モノレール【2】 ・海老取川 天空橋 大田市場 多摩川両岸 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な海産物を水揚げしてその場で食べられるのは楽しい【4】 ・都心でも様々な魚が獲れるということを知った【2】 ・飛行機や海など、地域の資源を間近でみながら食べられたことが良かった【2】 ・地元漁業従事者の方から新たな食べ方や調理の仕方を学んだ【2】 ・獲れた高級魚(タイ・スズキ等)を食べられてよかった【2】 ・獲れた魚介類をすぐ食すことは良いし、都心に住民や観光客にとっては魅力的。 				
	『アクセシビリティ』【7】							
観光漁業の可能性【25】	『観光漁業の可能性』【25】							
	<ul style="list-style-type: none"> ・都心部から 30 分程度で羽田へ行けるため、立地はいい【2】 ・羽田という都心で潮干狩りが体験できる(気軽に体験することができる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・電車に乗ればすぐに行けるという近さがいい ・羽田国際空港のすぐ近くであり、またその迫力がいい ・他に同様のことをやっている人がいないという優越感が良かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・天空橋駅から徒歩 1 分で漁船に乗ることができるのは魅力的 ・河口域なため波が少なく心地よい【2】 ・渋滞がないからストレスを感じない【2】 ・浅瀬なため安心感がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京 23 区という都心で海産物の地産地消できるのは貴重な場所 				
	<ul style="list-style-type: none"> ・有料であっても、誰もが払える額ならば、また体験したいと思った【4】 ・シジミ 獲りはまだ行ってないので、次の機会があれば体験したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁師さんが実際に網を投げ込んでいる様子を見て美観が体験したいと思った【3】 ・食体験とのパッケージやお土産があると有料でも体験したい【3】 ・有料でも参加したい【2】 ・また参加してみたいと思った 	<ul style="list-style-type: none"> ・もう一度体験したいと思った【4】 ・他の体験活動との連携をすればもっと体験したい【2】 	<ul style="list-style-type: none"> ・もう一度体験したいと思った【3】 ・有料でも体験したい ・次も潮干狩りや刺し網漁といった体験とセットで行いたい 				
検討事項【25】	<ul style="list-style-type: none"> ・潮干狩り後に体を洗えなかった【2】 ・衛生面・器具の使いこなし・服装面を総合すると気軽さが重要かと思った【2】 ・天候・収穫具合で時間配分を考える必要性 ・他地域(例木更津など)との比較や差別化でアピールする必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレやシャワーなどの水回りが課題【3】 ・他体験との連携が必要【3】 ・網入れの際、漁船が停まるため酔いやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・船のルート選定を複数設けることで、飽きが無くなると思う【4】 ・棧橋などの乗降する場所をもっと工夫する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理する場合は電気や冷蔵庫が欲しい【4】 ・羽田の魅力を感じて食べる場所が少ない【2】 ・天候によって漁獲物の増減があった 				

※補注【数字】：関連する記入件数を表す

Group.A (男性4名女性1名)	Group.B (男性3名※1名欠席)	Group.C (男性4名)
【観光漁業成立の要件】 地元住民の理解・援助 ・リピーターの確保 ・空間の認知 ・「観光漁業」の継続性	持続性 (資金・空間・人) ・リピーター問題 ・空間 ・設備の利便性問題 ↓ 地元の理解・援助	地元の方の理解・援助 ・リピーターの確保(継続性) ・資金関係 ・空間の多様性が必要
【対象】 地元住民 【取り組み】 ①本物志向の生業体験 例:潮干狩り 冬・ワカメの収穫 周年漁船での船上体験 ②羽田の観光資源を有効活用 ・船上体験をしながら漁業見学 (付加価値⇒航空機・工場景観等)	【対象】 地元住民 【取り組み】 ①生業体験 (漁業体験、地産地消体験等) (1)都市住民⇒「気軽さ」最大活用 (2)地元商店街⇒地産地消連携 (3)固定客の確保 例:学校での課外授業 ⇒「地域愛」の醸成	【対象】 地元住民 【取り組み】 ①地産地消体験 ⇒様々な参画者の協力 ②船上ルートの提案 ⇒羽田の「観光資源」をみせる 例:漁業(生業)風景 航空機・空港

Figure2. Result of workshop

民や観光客など、圧倒的な消費者を見込めることから、思い立ったらすぐに行ける、インフラ整備に伴う「アクセシビリティ」の良さは、重要な魅力要素と考えられる。(2)「観光漁業の可能性」—Table2 の「観光漁業の可能性(25件)」の項目に着目すると、『有料でも参加したい』『もう一度体験したい』といった評価が挙げられている。このように、体験者が再び訪れたいと想起する環境や魅力づくりが、観光振興の要諦であり、本質^[4]であることをふまえると、本調査により捉えた評価は、都心型漁業の「観光漁業」として促進させる可能性を見出していることと推察できる。

(3)WSから捉えた「観光漁業」の成立要件—Figure2をみると「観光漁業」の成立要件として、今回のWSでは、持続的な「観光漁業」を目指すべく「地域住民の理解や援助」を求める意見が各グループ共通して挙げられている。そして、体験から捉えた評価に基づき、その促



Photo1. Fishery experience

Photo2. Haneda international airport

進への取り組みとして、「漁業体験」や漁業(生業)風景およびその付加価値となる羽田地区周辺の観光資源を包括した「景観体験」など、本物志向の生業体験の提案が顕著にみられた。しかし、大田区を含む海を有する都内6区のほとんどの漁業は、産業として埒外な現状であることから、今後は地元住民が地域の生業・文化(Photo1)やその周辺の観光資源(Photo2)といった、暮らしの現場を見続け、今回の体験により捉えた魅力要素を享受していくことで、地元住民に理解や援助を促させ、持続的な都心型漁業の「観光漁業」構築に繋がるものとなる。

4. 謝辞

本研究の実施に際し、都心型漁業の体験やワークショップにご協力頂いた、羽田地区の漁業従事者である亀山幸弘氏および12名の大学生の皆様へ、ここに記して謝意を申し上げます。

5. 補注・参考文献

- ※1 本研究対象地である東京都大田区羽田地区では、都心部で多くみられる「嫌気性土壌(ヘドロ)問題 [位置:多摩川河口部]」と「漁業従事者不足」が顕著な課題となっている。
- ※2 本調査では「潮干狩り」「漁業」「船上」「地産地消」の4つの体験活動を実施した。なお「地産地消体験」は、「漁業体験」によって獲れた魚介類を大田区臨海部に位置する大森ふるさと浜辺公園でバーベキューを実施した。
- [1] 新宅持志 他4名:「都心型漁業を核としたまちづくりのあり方に関する研究(その1)」, 日本建築学会学術講演梗概集(関東), pp485~486, 2011
- [2] 伊藤貴弘 他4名:「都心型漁業を核としたまちづくりのあり方に関する研究(その2)」, 日本建築学会学術講演梗概集(関東), pp487~488, 2011
- [3] 中島誠仁 他4名:「都心型漁業を核としたまちづくりのあり方に関する研究(その3)」, 日本建築学会学術講演梗概集(関東), pp489~490, 2011
- [4] 大田区:「大田区の事業所(平成18年 事業所・企業統計調査報告)」, p14, 2009, 3
- [5] 佐々木一成:「観光振興と魅力あるまちづくり」, 学芸出版社, p21, 2008